
81巻3号

2026年7月1日

YAA 天文会報

(7~9月号)

809号

〒226-0016

横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402

正木 仁 方

Mail: masaki@e08.itscom.net

HP: <http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html>

横浜天文研究会



M65,M66,NGC3628

撮影：山形幹夫

観望ガイド

正木

前号の会報でお知らせした、マッブス彗星（C/2026 A1）ですが、残念ですがやはり近日点通過時に消滅してしまいました。SOHOのカメラ映像を見ると、尾を引いた彗星が太陽を隠す円盤に近づいていき、しかし反対側から彗星が出てくることはなく、塵のようなものがサーッと舞い上がる様子が見えました。やはりクロイツ群の彗星は近日点を無事に通過することが厳しいですね。

また、6月の日没後の西空に集まっていた、金星・木星・水星は梅雨空に隠されとうとう撮影はおろか、見ることもできませんでした。

7月は、本州の梅雨明けがいつ頃になるかまだ分かりませんが、上旬には明け方の東の低空で火星（1.4等）と天王星（5.8等）が接近しています。天王星は火星の東側になりますが、双眼鏡で簡単に見ることができます。さらに上下からプレヤデス星団とヒアデス星団に挟まれて面白い構図になっています。

17日の日没後、西の空低いところで金星と右下にしし座のレグルス、その間に月齢3.1の月が並んで見えます。うまく晴れが続けば、16日から18日にかけて薄明が残る空を背景に金星とレグルスの近くを細い月が通過していく様子が見えます。月末にはやぎ座 α 流星群、みずがめ座 δ 流星群が極大になりますが、満月過ぎの月明りに邪魔されますので観測条件は悪いです。

8月といえばペルセウス座流星群ですが、今年は13日11時に極大、同じ日が新月ですから天気さえよければ条件は最良です。極大時刻が日中の11時ということで日本からは極大時に流星を見ることはできませんが、13日と14日の明け方が見ごろになると思います。今年の13日は木曜日と平日ですが、空の暗い場所にいる方、出かけられる方はぜひ夜空に注目してください。市街地よりはるかに多くの流れ星を見ることができると思います。

17日には、はくちょう座 κ 流星群が極大です。出現数は期待できないですが、流星が消える直前に爆発する姿を見せることが多い、という特徴がある流星群として知られています。

15日に金星が東方最大離角（-4.4等）となります。翌16日には月齢3.7の月が接近します。地球照も見やすい月齢ですから美しい眺めになります。

9月19日に、金星が最大光輝（-4.8等）となります。これから10月22日の内合に向けてどんどん高度を低くしていきます。宵の明星としての姿を見ることができるのもあとわずかです。

25日は中秋の名月です。満月は27日午前1時49分ですから、今年の十五夜様はまだちょっと端が欠けた姿になります。

何でも使えばいいというものではない

山形幹夫

前号で紹介の0IIIとH α の波長のみが透過する、波長域の半値幅5nmのデュアルバンドパスフィルターDBPでM20三裂星雲を撮影しました。撮って出しの1枚画像は以下のようなです。M20の赤い部分は写っていますが、上部と周囲にある青色の



星雲部分は全くと言っていいほど写っていません。つまり0IIIの波長だと思っていた小生の勘違いが招いた結果です。ということで、撮影対象がどのような波長特性かを確認して撮影に臨むのが当たり前であり、何でもフィルターを使えばいいというものではありません。彗星撮影用のコメットフィルターCBPを使用して周囲の青い部分が良く写っている作例がありました。

これからの季節に見やすい、M8の画像を掲載します。フィルター未使用です。画像処理はサラッとしてあります。ピント移動確認するため60分程度の撮影設定をしますが、眠ってしまい2時間分の撮影できず薄明を迎えました。最初から撮影設定を2時間として時々撮影画像をチェックすれば良かった。



【本頁写真】 いて座M8 干潟星雲 2026年5月17日 撮影地：長野県入笠山 Nikon D810A 望遠鏡：25cm F4 f=1000mm ニュートン式+コマコレクタ (Sky Watcher製) ISO5000 60秒×60枚 (1時間) フィルター未使用

【表紙写真】 しし座M65 (右下), M66 (左下), NGC3628 (上) 2026年5月16日 撮影地、機材は同上 ISO5000 60秒×102枚 APSサイズ程度にトリミング

日月星の伝承を訪ねて (88)

横山好廣

津久井の月待塔 ⑪

前回に続いて、旧津久井郡内で塔身の高さが 40 cm に満たない、小振りの月待塔の紹介をする。

(1) 調査地 相模原市緑区又野 711

加藤家生垣の中に所在

調査年月日 2021(令和 3).11.19

形状 自然石 文字塔

名称 二十三夜塔

銘文 正面 「廿三 ---」

* 造立年・施主名不明

法量 塔身 31×14×8

台石 8×22×15



新型コロナウイルス禍下における調査である。加藤家を訪ね、二十三夜塔の調査で伺った旨を話すと、当主の加藤喜一氏は快く受け入れて下さった。コロナのこともあり見ず知らずの他人の訪問は断られても仕方のない事と思っていたので、ご厚意に只々感謝するばかりであった。

同氏が案内してくれたのは2基の小型の石塔で、一基は明治16年建立の妙法守護碑(当時、流行していた民間信仰)、もう一基は碑面の判読が困難な石塔であった。碑面不明の方が二十三夜塔だということで、よく見ると廿三と見えるような、見えないような状況であった。本碑の法量を測定すると、資料の法量と一致するので、二十三夜塔の可能性が高いことを確認した。

帰宅後、写真で碑面を確認すると、「廿三・」と読めたので二十三夜塔であると確定した。この2基の石塔の法量は、二十三夜塔が自然石(河原石)・31×14×8で妙法守護碑が自然板石・35×22×6と大変似通っていることに留意すると、二十三夜塔の造立年も明治16年頃ではないかと想像する。また、妙法守護碑の施主は加藤□□と刻されているので、二十三夜塔にも加藤・・と刻されているのではないかと推測した。石材の違いや石工の技術に加えて、経年の影響が判読のし易さに表れてきたものであろうか。2基の石塔は明治以来、加藤家に代々伝えられてきた、地域の文化や信仰を物語る貴重な文化財である。

同氏に二十三夜待の行事についても尋ねてみたが、特に伝え聞いたことはないそうで、今では古いしきたりもなくなっているらしい。二十三夜待が絶えてから、久しいのではないだろうか。

次に取り上げる月待塔は風化・損壊が著しい石造物の断材で全容は不明である。塔身は40cmを超えているかもしれないが、月待供養碑は珍しいので取り上げることにした。

(2) 調査地 相模原市緑区三ヶ木 1132 向

調査年月日 2022(令和 4).11.6

形状 柱状碑・断材

名称 月待供養碑

銘文 正面「----保十七壬子天」

「-----待供養」

「-----」

法量 塔身 34×22×7

台石 不明

*断材につき全容不明

野尻石仏群



銘文について、資料を基に検討補足する。

・造立年月日----「享保十七壬子天(1732) 八月八日」

・主文-----「奉造立月待供養」 ・施主名----不明

* 参考資料 『つくい町の古道』、『津久井町郷土誌』、『津久井町史・文化遺産編』、『相模原市立博物館研究報告(28)』

津久井方面の月待塔は、自然石に「廿三夜」と刻した形が多い。角柱に「月待供養」と刻した例は、「廿三夜」と刻したものよりも前代のもので、数的に少ない。その事例が本碑を含め二例存しているのは、単なる偶然であろうか。貴重な石造物である。概略を下記に示す。

・所在地 三ヶ木 1435 落合坂中腹

・形態 唐破風笠付角柱・菩薩立像碑

・銘文 奉造立月待供養

・造立年代 元文四己未天八月廿七日 (1739)

三ヶ木は津久井方面の月待が「廿三夜」で定着する以前の月待の痕跡が認められる地域である。



(「津久井の月待塔」了)

天 象

相原 榮

7月

水星: 明け方の東天で急激に高度を上げる +1.5~+4.3~-0.8等 ふたご座

金星: 夕方の南西天、観望好期 -4.1~4.3等 しし座

火星: 明け方の東天 +1.4~+1.3等 おうし座

木星: 夕方の西天低空、後半は太陽方向 -1.8等 かに座

土星: 夜半に昇り明け方南中 +0.8~+0.6等 うお座

5日 03h 火星と天王星が大接近

7日 10h57m 小暑

8日 04h29m 半月(下弦)

未明に月と土星が接近

12日 未明の東天で月と火星が接近(ヒヤデス星
団近く)

14日 18h44m 新月

17日 宵の西天で月と金星が並ぶ

21日 20h06m 半月(上弦)

23日 04h13m 大暑

28日 みずがめ座δ流星群が極大の頃

29日 23h36m 満月

30日 やぎ座α流星群が極大の頃(条件最悪)

みずがめ座δ南流星群が極大の頃(条件最
悪)

8月

水星: 明け方の北東天、上旬は観望好期 +0.8~-1.8等 ふたご→かに→しし座

金星: 夕方の南西天、観望好期 -4.3~-4.6等 しし→おとめ座

火星: 夜半過ぎに昇る +1.3~+1.2等 おうし→ふたご座

木星: 明け方の東天に昇る -1.8等 かに座

土星: 夜半前に昇る、観望好期 +0.6~+0.5等 うお座

6日 11h21m 半月(下弦)

7日 20h43m 立秋

12日 明け方の東天低空で月と水星・木星が集
合

13日 02h37m 新月(スペイン・アイランドで皆
既日食)

11h ペルセウス座流星群が極大の頃(条件
最良)

15日 未明に火星が散開星団 M35 に大接近

16日 明け方の東天低空で水星と木星が大接近
夕空で月と金星が接近

17日 はくちょう座κ流星群が極大の頃

20日 11h46m 半月(上弦)

23日 11h19m 処暑

28日 13h19m 満月

9月

水星: 夕方の西天低空 -1.5~-0.1等 しし→おとめ座

金星: 宵の明星・夕方の南西天、前半は観望好期 -4.6~-4.8等 おとめ座

火星: 夜半に昇る +1.2~+1.1等 ふたご座

木星: 夜半過ぎに昇る -1.8~-1.9等 かに→しし座

土星: 夜半過ぎに南中、観望好期 +0.5~+0.3等 うお→くじら座

4日 16h51m 半月(下弦)

7日 23h41m 白露

未明に月と火星が接近

9日 明け方の東天で月と木星が大接近

10日 9月ペルセウス座流星群が極大の
頃(条件良好)

11日 12h27m 新月

4日 夕方の西南西天低空で月と金星が大接近

19日 05h44m 半月(上弦)

23日 09h05m 秋分

25日 中秋の名月

27日 01h49m 満月

宵の東天で月と土星が並ぶ